

試験名称	建築基準法第2条第九号に係る不燃材料の防火性能試験			
試験方法	(財) 建材試験センターが定めた「防耐火性能試験・評価業務方法書」の不燃性試験・評価方法に基づく発熱性試験。 加熱時間20分、設定輻射熱量50kW/m ² 、排気ガス流量速度2.4m/s			
試験結果	試験体記号	A	B	C
	試験体の大きさ (mm)	100×100	100×100	100×100
	試験体の厚さ (mm)	5.2	5.3	5.2
	試験体の質量 (g)	107.8	107.3	107.9
	総発熱量曲線	別図-1	別図-2	別図-3
	20分間の総発熱量 (MJ/m ²)	1.7	1.9	1.4
	発熱速度曲線	別図-4	別図-5	別図-6
	最高発熱速度 (kW/m ²)	3.8	6.4	6.5
	200kW/m ² 超過継続時間 (s)	なし	なし	なし
	防火上有害な裏面まで貫通する亀裂及び穴の有無	なし	なし	なし
	着炎時間 (s)	なし	なし	なし
	消炎時間 (s)	-	-	-
	試験年月日	平成17年 8月30日	平成17年 8月30日	平成17年 8月31日
	判定	合格	合格	合格
[備考]	-			
試験期間	平成17年 8月30日 ~ 31日			
担当者	防耐火グループ	試験監督者 川端 義雄 試験責任者 西本 俊郎 試験実施者 高見 治子、中村 杏子 平沼 宏之		
試験場所	中央試験所			

現場発泡ウレタン吹付・耐火被覆施工の未来を変える

フィブ (FEP) 工法

剥離材+ウレタン断熱・耐火被覆複合工法



OKAMOTO

責任施工

製造

建設業の許可票 北海道知事許可(般一)第1536号
 **岡本産業株式会社**

所在地 石狩市樽川8条1丁目198番地
 総合事業所 TEL (0133) 76-2575
 ホームページ <http://www.okamotosangyo.co.jp>
 Eメール info@okamotosangyo.co.jp

フィブ（FEP）工法とは

現場発泡ウレタン吹付及び耐火被覆吹付施工後の将来の改修工事又は解体工事作業において分別が容易でないため、分別作業の軽減化を解決するために開発したのがフィブ（FEP）工法です。防火性・耐水性に富んだ無機質の材料なので、火災時に有害ガスの発生がなく、水性系のため安心して施工できます。特に有機系断熱材面の防火コートに効果を発揮します。さらに作業性・工期短縮・コスト削減の要求にも対応した工法です。

フィブ（FEP）工法のFはFuture(未来)のF、EはEnvironment(環境)のE、PはProposal(提案)のPです。

弊社は建設専門業者として責任を果たし社会に貢献致します。

特長

無機質の軽量素材で構成された材料です。セメント系材質のため、鋼材を腐食させにくく、有害ガスを発生しないセラミックス系で、次世代の材料及び工法です。

フィブコート物性表

試験体 1 (鉄)			試験体 2 (スレート)			試験体 3 (ウレタン)		
試験体番号	最大荷重 (N)	引張接着強さ (N/mm ²)	試験体番号	最大荷重 (N)	引張接着強さ (N/mm ²)	試験体番号	最大荷重 (N)	引張接着強さ (N/mm ²)
1-1	877.8	0.55	2-1	437.6	0.27	3-1	131.5	0.08
1-2	863.1	0.54	2-2	442.9	0.28	3-2	131.5	0.08
1-3	812.1	0.51	2-3	476.5	0.30	3-3	130.2	0.08
1-4	877.8	0.55	2-4	421.5	0.26	3-4	157.0	0.10
1-5	793.3	0.50	2-5	422.8	0.26	3-5	154.4	0.10
計平均		0.530	計平均		0.274	計平均		0.088

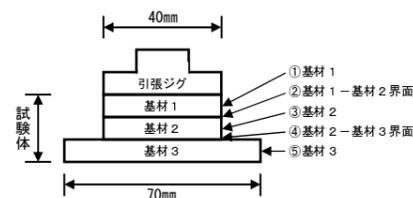
北海道立北方建築総合研究所

付着強さ試験 [発泡ウレタン+フィブコート(FEP)]

■最大荷重及び引張接着強さ、破断位置

試験体	最大荷重 (N)	引張接着強さ (N/mm ²)	破断位置
1	402.7	0.25	②
2	464.4	0.29	②
3	177.2	0.11	④
4	402.7	0.25	②
5	495.3	0.31	②

■試験体概要(接着面積40mm×40mm)



■試験体基材の組み合わせ

試験体名	試験体
基材 1	フィブコート(FEP)
基材 2	発泡ウレタン
基材 3	スレート

北海道立北方建築総合研究所

※1袋当り1.5~2mm程度 仕上げ約16~13m²

※1袋20kg入 (25%)

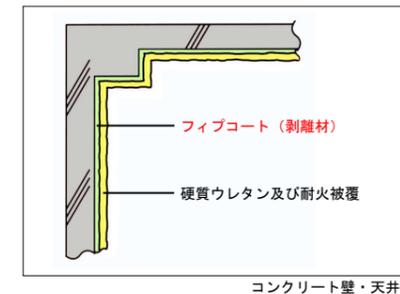
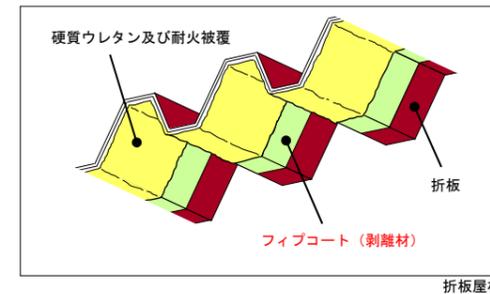
詳しくは別途ご請求下さい。

用途

事務所ビル、集合住宅、学校、病院、老人保健施設、公共施設、駐車場、ゴミ処理工場、上下水処理場、エレベーター室、階段室、冷凍・冷蔵倉庫、サイロ、トンネル

施工面

コンクリート、鉄骨、折板、金属パネル、合板
有機系断熱材各下地及びウレタン吹付面使用

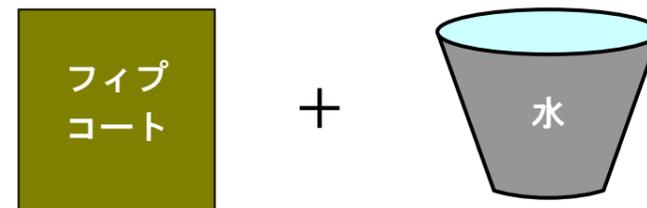


施工要領

- ①施工可能な下地であることを確認する。
- ②フィブプライマーを塗布する。
- ③プライマー乾燥後、フィブコート吹付で仕上げる。
※平均厚1mm~4mm以下で仕上げする。
- ④フィブコート乾燥後、ウレタン吹付及び耐火被覆を施工する。
- ⑤ウレタン吹付後プライマー塗布をし、乾燥後フィブコート吹付仕上をする。
※吹付厚みを確認する。

材料調合及び注意事項

- ①フィブコート1袋に対して吹付けの場合は清水17~18%を入れ、よく攪拌する。
- ②フィブコート材料には絶対に他の材料を混入しないこと。
- ③施工時に凍結が予想される場合は、施工をしないこと。
※コテ塗り仕上は清水量が異なりますので、メーカーの指示に従って下さい。



※使用機械 スネーク式・スクイズ式・塗装吹付ガン・左官ゴテにて均一に塗布する。

剥離作業方法

カワスキ・スクレーパー等の工具で吹付面とウレタン吹付材又は耐火被覆材と躯体の間にカワスキ又はスクレーパーを押し入れ、手前に引き順に押入作業を繰り返すことにより剥離することができます。